



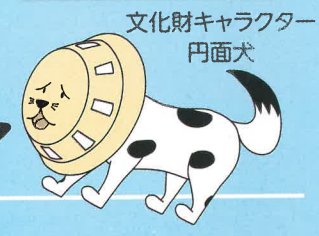
- ① 伊古田遺跡(土偶出土)
- ② 中在家南遺跡
- ③ 遠見塚古墳
- ④ 郡山遺跡
- ⑤ 陸奥国分寺・尼寺跡
- ⑥ 仙台城跡
- ⑦ 大崎八幡宮
- ⑧ 秋保の田植踊

チャレンジ!

せんたいたい遺産 検定

問題

肯定に挑戦!



(答えに○をつけてください)

1.文化財の種類

ニホンカモシカは次のうち、どの文化財にあたるでしょうか。



- ①有形文化財 ②伝統的建造物群 ③記念物

2.伊古田遺跡出土 土偶

この土偶の説明として正しいものはどれでしょうか。



- ①木で作られている彫刻である
- ②用途がはっきりと分かっている
- ③縄文時代後期の土偶の地域性を示す貴重な資料である

3.中在家南遺跡出土遺物

この遺跡で未完成品が発見され、その製作工程をたどることでもできる貴重な資料と考えられるものは何でしょうか。



- ①木製品 ②鉄製品 ③電化製品

4.遠見塚古墳

仙台市内で最大の前方後円墳である、この古墳の全長は何mでしょうか。



- ①55m ②110m ③175m

5.郡山遺跡

発掘調査から、この遺跡にはどんなものがあったことが明らかになったのでしょうか。



- ①学校 ②古墳 ③官衙や寺院跡

6.陸奥国分寺跡

陸奥国分寺を江戸時代に再興した政宗が建てた、現存する市内最古の木造建築物はどれでしょうか。



- ①七重塔 ②薬師堂 ③金堂

7.仙台城跡

仙台城跡で現在指定・認定を受けていないものはどれでしょうか。



- ①史跡 ②国宝 ③日本遺産

8.大崎八幡宮

本殿と拝殿を土間でつなげる、このような造りを何というでしょうか



- ①書院造 ②校倉造 ③権現造

9.秋保の田植踊

田植踊は、本来いつ踊られる民俗芸能でしょうか。



- ①田植えの前 ②小正月 ③稲刈りのあと

10.日本遺産

宮城県が中心となって申請した「政宗が育んだ“○○”な文化」が平成28年に日本遺産に認定されました。○○に入る言葉はどれでしょうか。



- ①“国際的” ②“陸奥” ③“伊達”

チャレンジ!

せんたいたい遺産 検定

～伊達な文化財ハカセを目指せ～

どんな種類の文化財?

文化財キャラクター
まさむねくん



郡山遺跡は古代の○○跡や寺院跡



仙台最大の古墳
その長さは?



伊達政宗の命でこの地に建てられた最古の○○造



文化財キャラクター
ヨヘエケン



はじめに

平成28年度は「政宗が育んだ“伊達”な文化」が日本遺産に認定されました。今回認定された内容を含め、仙台市には300を超える指定・登録の文化財があります。これら、仙台の歴史を伝える貴重な文化財は仙台の歴史を彩る「**せんだい遺産**」とも言えます。

検定式のクイズを通して、仙台の文化財について知っていただきたいと思います。“伊達”な文化財ハカセを目指して検定クイズに挑戦することが、仙台市内の文化財の魅力との出会いとなれば幸いです。

文化財の種別

こんなに種類があるのガ



文化財キャラクターオニガ

日本の文化財

特に重要なものは国・県・市が指定、登録をしているヨ



有形文化財

無形文化財

民俗文化財

記念物

文化的景観

伝統的建造物群



伊古田遺跡出土土偶



大崎八幡宮



小滝沢橋
(太白区秋保)



精好仙台平



秋保(馬場)の田植踊



有形民俗文化財

無形民俗文化財

牛若丸剣道修行図絵馬
(愛宕神社)

しせき 史跡



仙台城跡

めいしやう 名勝



つづじが岡及び
天神の御社

天然記念物



ニホンカモシカ

埋蔵文化財



伊古田遺跡出土 土偶

太白区

市指定

平成6年
(1994)



縄文時代の集落跡である伊古田遺跡(市営地下鉄富沢駅周辺)から出土した土偶4点です。

この土偶は、縄文時代の後期のもので、部分的に欠けているものの、よく形を残しています。最も大きいものは高さ41.4cmで、この時期の土偶としては国内で最大級の大きさです。これらの土偶は、縄文時代後期の土偶の地域性を示す貴重な資料として、市の有形文化財に指定されています。

土偶とは、縄文時代に粘土を焼いて作られた像です。縄文時代の始めから終わりまでの長い間にわたってつくられました。土偶は何のためにつくられたのか、どのように使用したのかについては、まだはっきりとは分かっていませんが、病気やけがの身代わりとして使われた、母性を象徴し、豊作や子孫繁栄を祈るために使われたなど様々な説が考えられています。

中在家南遺跡出土遺物

若林区

市指定

平成15年
(2003)



中在家南遺跡全景

中在家南遺跡は仙台平野東部にある遺跡で、昭和63年(1988)から継続して調査が行われています。

自然堤防からは、西側に弥生時代の集落に関する遺物を含む土層が、東側からは墓地、古墳時代の方形周溝墓が発見されるなど、主に弥生時代以降の各時代の遺構が検出されています。長さ230cm、幅75cm程度の楕円形の弥生時代の土壙墓からは、副葬された玉類、石斧が見つかっています。

河川跡からは各時代の土器のほか、多数の木製品や骨角器など、通常の遺跡では残らないものが良好な保存状態で出土しています。

特に木製品は未完成の状態で見つっているものも多いことから、木製品の製作も行われていたことが分かり、製作工程を辿ることもできます。仙台平野の弥生時代の様子を解明する貴重な資料であるとして、市の有形文化財に指定されています。



木製品が出土した様子

と お み づ か 遠 見 塚 古 墳

若林区



昭和20年代の遠見塚古墳

遠見塚古墳は、4世紀頃に仙台平野を治めた有力者の墓と考えられています。当時は、西日本を中心に有力者の墓として、古墳がたくさん造られました。

遠見塚古墳は、「前方後円墳」と呼ばれる円形と台形の墳丘を合わせた形をしています。古墳の全長は110m、後円部の直径は63m、前方部の長さは47m、高さは後円部が6.5m、前方部は2.5mです。

古墳の主体部(後円部内)からは、勾玉などの石製模造品や櫛などの副葬品が出土しましたが、主体部の半分以上が破壊されていたこともあり、出土品の数は多くありません。

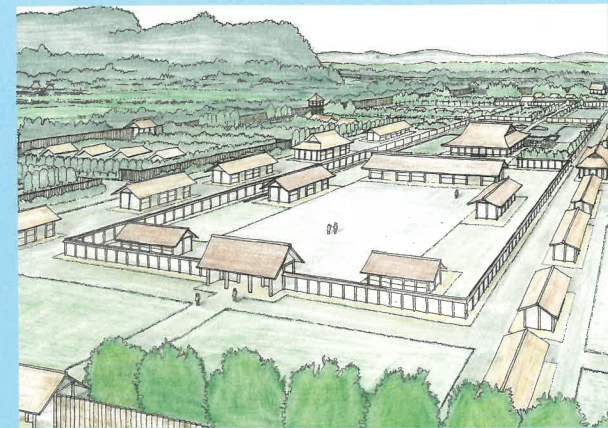
何度も破壊の危機にさらされましたが、仙台平野最大の規模を誇る遠見塚古墳は、古代東北地方を知る貴重な資料として国の史跡に指定され、現在は、市民の憩いの場として活用されています。



古墳から出土した櫛(右下・幅2cm)

かん が 仙 台 郡 山 官 衙 遺 跡 群

太白区



Ⅱ期官衙中枢部 復元図

郡山遺跡は太白区郡山にある、7世紀中頃から8世紀初頭の官衙(役所)と寺院の跡です。その存在は、日本書紀などには記されておらず、昭和54年(1979)から行われている発掘調査によってはじめて明らかになりました。

官衙は一度造り替えられており、Ⅰ期官衙は東日本でも最古段階の国の役所(国府)、Ⅱ期官衙は陸奥国に最初につくられた寺院が伴う国府であると考えられています。

官衙の内部で見つかった石組池は、地方の官衙(役所)では唯一のもので、政治的な儀礼に使われていたと考えられています。円面硯や木簡など、役所で使われる道具の他に、関東系や畿内産の土師器も出土しており、関東や朝廷とのつながりを示しています。古代東北の政治の様子などを知る上で非常に貴重な遺跡として、国史跡に指定されています。



Ⅱ期官衙 石組池跡

む つ ぐ く ぶ ん し 陸 奥 国 分 寺 跡

若林区



陸奥国分寺跡は、奈良時代、聖武天皇の命で建てられた国分寺の中で、最北のものとして知られています。大正11年(1922)に国の史跡に指定されました。約500m東には、陸奥国分寺と合わせて造営された陸奥国分尼寺跡があり、その一部が昭和23年(1948)に同じく国の史跡に指定されています。陸奥国分寺跡は、北辺は明らかではありませんが、発掘調査によって約240m四方の築地塀で囲まれていたと考えられています。



陸奥国分寺復元模型(国立歴史民俗博物館 蔵)



陸奥国分寺薬師堂(国指定文化財)

江戸時代、衰退していた国分寺を再興しようとした伊達政宗は、講堂があった場所に薬師堂を、南大門があった場所に仁王門(県指定文化財)を建てました。陸奥国分寺薬師堂は、仙台最古の木造建築物の一つで国の有形文化財(重要文化財)に指定されています。また、「木の下及び薬師堂」は、平成27年(2015)に名勝「おくのほそ道の風景地」にも指定されています。

せん だい じょう あと 仙 台 城 跡

青葉区



初代仙台藩主伊達政宗によって造られた仙台城は、関ヶ原の戦い直後の慶長5年(1600)12月に縄張(現地での計画)が始められ、翌年1月に工事が開始され、慶長7年(1602)にはほぼ完成したといわれています。

仙台城跡の特徴は、東側を広瀬川、西側を「御裏林」と呼ばれる山林、南側を竜の口溪谷に囲まれた自然の地形を上手く利用していることです。

現在仙台城跡は、日本を代表する城跡として国の史跡に指定され、平成28年(2016)には「政宗が育んだ「伊達」な文化」の構成要素の一つとして日本遺産に認定されました。また、御裏林は江戸時代から変わらない貴重な自然が残ることから、昭和47年(1972)に国の天然記念物「青葉山」に指定されています。



仙台城見聞館に再現した大広間の一部



東から見た仙台城跡

おお さき はち まん ぐう
大 崎 八 幡 宮

青葉区



明治36年
(1903)



大崎八幡宮 拝殿

伊達政宗によって、慶長12年(1607)に現在の場所に造営されました。本殿(神様を祀る場)と拝殿(人が参拝する場)を石の間でつないだ権現造で、本殿や拝殿に比べて石の間の床が低くなっています。本来別れて建っていた二つの建物を土間で繋ぐことから生まれたこの様式の典型として最古のものです。

総漆塗、極彩色、飾金具などを巧みに使い、豪華で躍動感のある、桃山建築を代表する建物の一つです。障壁画や彫刻は繊細優美で、飛天、虎、猫、牡丹など様々な題材を組み合わせて表現されています。



大崎八幡宮 長床(国指定文化財)

大崎八幡宮は、国の指定文化財の中でも、特に優れたものとして、国宝に指定されています。

その他にも、境内には国指定文化財の長床や県指定文化財の石鳥居など、貴重な建造物が多くあります。また、毎年の行事として無形民俗文化財に指定されている能神楽や松焚祭(どんと祭)も毎年行われ、市民に親しまれています。

あき う た うえ おどり
秋 保 の 田 植 踊

太白区



昭和51年
(1976)

「秋保の田植踊」とは、秋保地区に伝わる馬場の田植踊・長袋の田植踊・湯元の田植踊の総称です。弥十郎のめでたい口上につづき、振袖を着て花笠を被った早乙女が、お囃子にあわせ、田植えを模した所作で華やかに踊ります。

田植踊とは本来、小正月に、その年の豊作を願って、寺社の境内や民家の庭などを舞台に演じられる東北地方独特の民俗芸能です。

かつては、近隣の集落に招かれて披露することもあり、田植踊は、雪深い村々に春を呼び込み、人びとの交流を生む農閑期の娯楽のひとつでもありました。

秋保の田植踊は、昭和51年(1976)国の無形民俗文化財に指定され、平成21年(2009)にはユネスコの「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に掲載されました。現在は、それぞれの集落の寺社の例祭で演じられています。



秋保(馬場)の田植踊の早乙女

日本 遺産 政宗が育んだ“伊達”な文化 宮城県

宮城県が代表となって仙台市、塩竈市、多賀城市及び松島町と連携して申請していた「政宗が育んだ“伊達”な文化」が、平成28年度「日本遺産」に認定されました。

日本遺産とは？

「日本遺産」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない、魅力溢れる有形や無形のさまざまな文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。この制度は平成27年度に始まり、平成28年10月現在で37件が認定されています。



榴岡天満宮唐門(市登録 仙台市宮城野区)



「政宗が育んだ“伊達”な文化」ストーリー

仙台藩を築いた伊達政宗は、戦国大名として政治・軍事面での活躍は広く知られるところですが、時代を代表する文化人でもあり、文化的にも上方に負けない気概で、自らの“都”仙台を創りあげようとしてきました。政宗は、その気概をもって、古代以来東北の地に根付いてきた文化の再興・再生を目指しました。その中で、伊達家で育まれた伝統的な文化を土台に、上方の桃山文化の影響を受けた豪華絢爛、



桃山様式の建築:大崎八幡宮(国宝 仙台市青葉区)



大沢の田植踊の弥十郎(中央)・早乙女(右、左)(県指定 仙台市泉区)

政宗の個性ともいべき意表を突く粋な斬新さ、さらには海外の文化に触発された国際性、といった時代の息吹を汲み取りながら、これまでにない新しい“伊達”な文化を仙台の地に華開かせていきました。そして、その文化は政宗だけに留まらず、時代を重ねるにつれ、後の藩主に、さらには仙台から全国へ、そして武士から庶民にまで、さまざまな方面へ広がり、定着し、熟成を加えていきました。